

議会と地域の活性化に向けて一閉塞を突き破る「地方」の価値と力の検証

地方創生の現実解と実現方策

～地域(自治体)の診断と処方箋づくりの方策—自治力で「地方」を「創生」する～

- これまでの地域開発政策をどう乗り越えるか—新しいタイプの総合計画へのアプローチ
- 「内発」と「外発」のハイブリットによる地方創生—自治力創造と機能連携システム
- 議会・議員は地域をどう評価し、どんな将来像を描き、どう施策化を図るか

2015年5月26日(火) 10:00～16:50 剛堂会館・会議室(東京・千代田区)

【講師陣】 **田口 一博** 氏 / 新潟県立大学国際地域学部准教授
 明治大学政治経済学部兼任講師

山下 祐介 氏 / 首都大学東京都市教養学部・人文社会系准教授

後藤 春彦 氏 / 早稲田大学創造理工学部教授

内閣府地方分権改革有識者会議議員

【参加要領】

■ 会場：剛堂会館・会議室

東京都千代田区紀尾井町3-27
 TEL03-3234-7362 (案内図は申込後送付)

■ 参加費(1名分)

	当日参加	メディア参加
行政・議員	25,000円	28,000円
一般	35,000円	38,000円

メディア参加申込の方へは研修会開催後にCD(講演音声収録)と資料及び請求書をお送り致します。当日参加で申込後にご都合が悪く欠席される場合にはメディア参加とさせていただきます。

■ 支払方法：請求後の振込・郵便振替・当日払い

みずほ銀行麹町支店 普通1159880
 三井住友銀行麹町支店 普通7411658
 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通5829767
 郵便振替:00110-8-81660 口座名:榊地域科学研究会

■ 申込方法：下記の申込書に所要事項を記入の上送付下さい (FAX・郵送・メール等)

請求書等書類が不要の方は開催日までに上記口座へ振込をお願いします (受講証/会場地図はFAX送信)。書類が必要な方には受講証と共に郵送しますので到着後にお支払いをお願いします。領収書が必要な方には当日受付でお渡し致します(日付、但書等の留意点があれば明記下さい)。

お申し込み・お問い合わせ



東京都千代田区一番町6-4ライオンズ第2-106
 TEL03(3234)1231 FAX03(3234)4993 〒102-0082
<http://chiikikagaku-k.co.jp/>

【申込書】 FAX : 03-3234-4993 Email : machi@chiikikagaku-k.co.jp 2015年 月 日

■ 研修会『地方創生の現実解と実現方策』

当日参加 メディア参加

勤務先
 (請求書等宛先名)

連絡担当者

所在地〒

TEL

参加者氏名

所属部課役職名

FAX

Email

〈通信欄〉○を付けて下さい

支払方法(請求後の振込・郵便振替・当日払い)

必要書類(納品書・請求書・見積書・領収書)

※ご記入いただいた個人情報は、当会の活動(セミナー・出版等の申込受付、連絡、請求、案内等)のみに使用させていただきます。

時	講義内容
<p>10:00 ～ 12:00</p>	<p>議会・議員は「地方創生」にどう取り組むか ～地域の診断と処方箋づくりへの戦略と議員活動～</p> <p>1. 地域を改めて診断する (1) 基本構想・総合計画等の実施状況の再確認 (2) 国勢調査の結果の利用 (3) 決算カード等で長期変化を</p> <p>2. 地域を評価する (1) 基本構想・総合計画等との乖離 (2) 近隣・類似自治体との比較 (3) 売上げより付加価値、利益、地域内循環</p> <p>3. 将来像の議論 (1) デタラメ消滅自治体論よりも議員の素肌感覚 (2) 独任制の首長には決められない将来像 (3) 議員間討議を成立させるための条件</p> <p>4. 施策化段階 (1) コンサルタントを活用するには (2) 議員間の横の連携、議会間の横の連携 (3) 議員の想いを実現させていく方法</p> <p style="text-align: right;">新潟県立大学国際地域学部准教授 田口 一博氏</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>安倍内閣が打ち出した「地方創生」。ふるさと創生とも、地方分権とも、そしてもちろん地域主権改革とも異なったものとするという。しかしそこで最も異なるのは、現在のところは、地方の問題点も解決策も地方側が考える、という点であろう。そこで国と同様、地方創生に向き合う地方の側にとっても最初に必要となることは、自身の現状を正確に認識し、客観的に評価し、どのような将来像であるべきかを議論で決めることである。それをすることなしに、将来像に向けての施策を考えることはできない。評価と議論を行って、これまでのやり方を変える。これはまさに議会の仕事に他ならない。</p> </div> <p style="text-align: right;">【質疑応答】</p>
<p>13:00 ～ 14:50</p>	<p>東京で考える地方、地方から始める創生 ～これまでの地域開発政策をどう乗り越えるか～</p> <p>1. 増田レポートから地方創生へー東京発の地方創生 2. 過疎問題の生成と展開 3. 誰が地方消滅を導くのか？ 4. 田園回帰・地方移住は再生の切り札になるか？</p> <p>①人の回帰：(1) 中央から地方へ、都市から農村へ (2) 「家」の取り戻し ②産業を、高次から低次へ帰す ③スケールメリット（規模拡大）から、小スケールの見直し・存続へ：地域自立経済の確立 ④「平常の持続」の幻想から、危機対応・リスク対応型の構造へ ⑤豊かな自然環境の取り戻し ⑥論理の回帰へ：自由・平等・競争の論理から、共同体主義、分権・地域主義へ 全国画一的な論理から、多様な論理の尊重へ</p> <p>5. 地域をあらためて作るー基本的なことを問い直すところから ～各地で作る地域版総合戦略の善し悪しが、もしかすると地域の将来を変える。 新しいタイプの総合計画が求められる～</p> <p style="text-align: right;">首都大学東京都市教養学部准教授 山下 祐介氏</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1969年生まれ。九州大学助手、弘前大学准教授を経て2011年より現職。過疎高齢化、災害、環境問題などに取り組む。専門は、都市社会学、地域社会学、環境社会学等。著書に、『限界集落の真実 過疎の村は消えるか』（筑摩書房、2012年）、『東北発の震災論 周辺から広域システムを考える』（筑摩書房、2013年）、『地方消滅の異増田レポートと人口減少社会の正体』（筑摩書房、2014年）ほか。</p> </div> <p style="text-align: right;">【質疑応答】</p>
<p>15:00 ～ 16:50</p>	<p>地方創生のための地域づくり ～内発と外発のハイブリッドによる自治力の創造～</p> <p>1. 地域の元気創造 2. 機能連携広域経営型プロジェクト 3. 医療・福祉・健康を支える多様な主体の機能連携 4. 計画的圏域（シティ・リージョン） 5. 共発力の涵養 6. 圏域資本（テリトリアル・キャピタル）</p> <p style="text-align: right;">早稲田大学創造理工学部教授 後藤 春彦氏</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1980年早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院修士課程・博士課程修了。工学博士。三重大学工学部助教授、早稲田大学理工学部助教授を経て、教授。専門分野は都市計画、地域計画。総務省ふるさとづくり懇談会委員、地域の元気有識者会議委員ほか歴任。日本建築学会賞（論文）、日本都市計画学会賞（計画設計賞）ほか受賞。著書に、「医学を基礎とするまちづくり」（水曜社）、「景観まちづくり論」（学芸出版社）ほか。</p> </div> <p style="text-align: right;">【質疑応答】</p>